

氏 名	宮 武 宏 和
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博甲第 4461 号
学位授与の日付	平成24年3月23日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文題目	Effect of Previous Interferon Treatment on Outcome After Curative Treatment for Hepatitis C Virus-Related Hepatocellular Carcinoma (根治療法後のC型肝炎ウイルス関連肝細胞癌における 発癌前インターフェロン療法の効果)
論文審査委員	教授 加藤 宣之 教授 八木 孝仁 准教授 大内田 守

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

発癌前にインターフェロン(IFN)療法が行われたC型肝炎ウイルス関連肝細胞癌(HCV関連HCC)患者における再発及び予後を明らかにするため、当院のHCV関連HCC患者395例をHCC発症前にIFN療法が行われた124例(持続的ウイルス学的著効(SVR)群17例、non-SVR群107例)と未治療群271例を比較検討した。HCC初回、第2回再発率及び累積生存率をKaplan-Meier法で、再発・生存の関連因子をCox比例ハザードモデルで検討した。HCC初回再発率は各群間の差は認めず、第2回再発はSVR群でnon-SVR群($p=0.003$)、未治療群($p=0.006$)より有意に再発率が低かった。SVR群のHCC初発後5年生存率はnon-SVR群、未治療群より有意に高かった(100%、73%、62% : $p=0.004$)。多変量解析では、発癌前IFN療法でのSVR群がHCC第2回再発($p=0.002$)及び予後($p<0.001$)の関連因子であった。HCV関連HCC患者において、発癌前のIFN療法でのSVRがHCCの第2回再発を抑制し生存期間を延長する可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究では、C型肝炎ウイルス(HCV)関連肝細胞癌(HCC)患者で、HCC発症前にインターフェロン(IFN)療法が行われた124例(17例の持続的ウイルス学的著効(SVR)と107例のnon-SVR)と未治療群271例について、HCCの再発と予後との関係を調べた。その結果、HCC初回再発率は各群間で差を認めなかったが、第2回の再発については、SVR群でnon-SVR群や未治療群より有意に再発率が低いことを見出した。また、SVR群のHCC初発後5年の生存率もnon-SVR群や未治療群より有意に高いことが分かった。

本研究は、HCV関連HCC患者において、発癌前のIFN療法でのSVRがHCCの第2回再発を抑制して生存期間を延長させる可能性を示した点において価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。